

事業検証資料(令和7年度実施事業分)

※担当課・外部有識者の評価 ■予算規模を拡充のうえ継続 ■現状のまま継続 ■手法改善のうえ継続 ■予算規模を縮小のうえ継続 ■終了または廃止

NO.	交付対象事業の名称	事業内容(個別事業)	事業実績及び事業費	7年度終了後における 重要業績評価指標(KPI)		7年度の実績値	担当課の評価等		担当課の今後の方針	外部有識者の評価・意見
				指標	指標値	実績値	評価	評価の理由(事業の成果・課題等)		
1	多様な越境機会の創出による地域課題解決型人財育成事業 ※第2世代交付金(地方創生推進交付金)を活用	【学力向上等支援事業】 生徒が進路目標を達成できるよう、一斉授業及び個別指導を行う公営塾「成銘館」を運営するもの。 【事業実績】 ①公営塾運営 ア. 昼夜利用できる学習センター: 自学自習、専任講師からの個別指導、など様々なスタイルでの学習が可能。 イ. 個別指導及び一斉授業: 生徒自らが計画を立て、進路目標を達成するため数学と英語の講座を開講。 ウ. えびの市内の中学生を対象とした講座を開催(英語検定講座・高校入試対策講座) ②学力向上支援 ・英語検定、漢字検定、小論文模試 ③生徒研修費補助 ・国内研修・国外研修 【事業費】 ●総事業費 6, 090, 165円 (うち、1, 647, 000円は地方創生推進交付金を活用) [内訳] ①公営塾運営費 ・公営塾講師給与 4, 158, 510円 ・社会保険等負担金 570, 162円 ・消耗品費 39, 930円 ・その他経費 36, 783円 ②学力向上支援 ・漢検補助費 53, 000円 ・英検補助費 173, 060円 ・小論文補助費 288, 050円 ③生徒研修費補助 770, 670円	飯野高等学校 全国在校生数	40人(R11)	20人 [内訳] 男子: 10人 女子: 10人	現状のまま継続	●講師が、飯野高校と連携をとりながら、全体指導やきめ細やかな個別指導、自学自習などを通して自立した学習の支援を行い、生徒の進路実現に努めている。 また、全国や海外の留学生と関わることで、様々な価値観などの刺激を受けて、社会で活躍できる人材の育成を図るため、新たに生徒の研修費補助を行い、更なる魅力向上に努めた。 一方で、市内中学生に向けて高校入試対策(市内中学3年生19人参加)や英検対策(市内中学生15人参加)を実施するなど、地域全体への学力向上に寄与した。 このことから、今後のより効果的な取組を期待し、現状のまま継続する。	●生徒の進路目標を達成できるように、公営塾の在り方について検証を行いながら、今後も公営塾を運営していく。 市の活性化に必要な不可欠な存在である飯野高等学校について、市の教育に関わる様々な場面や機会に活用を図り、地域に根差した高等学校として魅力向上に繋がるように支援を行っていく。	【評価】 現状のまま継続	

事業検証資料(令和7年度実施分)

※担当課・外部有識者の評価 ■予算規模を拡充のうえ継続 ■現状のまま継続 ■手法改善のうえ継続 ■予算規模を縮小のうえ継続 ■終了または廃止

NO.	交付対象事業の名称	事業内容(個別事業)	事業実績及び事業費	7年度終了後における重要業績評価指標(KPI)		7年度の実績値	担当課の評価等		担当課の今後の方針	外部有識者の評価・意見
				指標	指標値		評価	評価の理由(事業の成果・課題等)		
2	多様な越境機会の創出による地域課題解決型人材育成事業 ※第2世代交付金(地方創生推進交付金)を活用	【小規模市町村ネットワーク推進事業】 全国47の小規模市町村が広域に連携することで、生徒たちに地域や学校の枠を越えた多様な学びの機会を提供する。 地域の課題に向き合いながら実践的に学ぶことで、社会で活躍できる人材を育成するとともに、地域に新たな人の流れを生み出す。 また、さまざまな地域と関わることで、生徒たちは多角的な視野を持ち、地域課題を分析・解決する力を養う。その過程で地域に愛着を持ち、卒業後も関わり続ける「関係人口」として、各地域の持続可能な発展に貢献していく。	【事業実績】 ●小規模市町村ネットワーク推進事業 一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームが実施する「多様な越境機会創出に向けた市町村ネットワーク」へ参画し、飯野高等学校を全国に広くPRし、全国からの生徒募集を行いながら、在校生も様々な取り組みを行った。 ①デジタル活用による地域・学校の壁を越えた課題解決型人材の育成 ・ファッションをテーマに、地域活性化に取り組む探究プロジェクト(ZOZOの先輩社会人に相談できるオンラインプログラム)に、生活文化科の2人が参加した。 ②新たな人の流れづくりを通じた多層的な関係人口の創出 ・北海道の大空高校と共に、海外在住中学生向けに「おためし地域留学(1週間)」を開催し、世界9カ国から15人が参加した。 ・山形県の遊佐町と共に、マダガスカルで日本語を学ぶ中高生7人が2つの班に分かれ本市を訪問し、約3日間にわたる交流活動を実施した。なお、訪問した学生と現在もオンライン英語授業で交流を続けている。 【事業費】 ●小規模市町村ネットワーク推進事業参画負担金 総事業費:1,595,000円 (うち、797,000円は地方創生推進交付金を活用)	飯野高等学校 全国在校生数	40人(R11)	20人 [内訳] 男子:10人 女子:10人	現状のまま継続	●小規模市町村ネットワークや地域みらい留学に参画することで、都市部の学生への幅広いPRが実現した。 在校生についても、自身のアイデアが企業の社員に評価され、先輩社会人への質疑応答を通じて実社会で求められる視点や考え方を学べる事ができた。 また、海外の中学生から日本の高校進学に関心が高まり、進学先に関わらず、大半の生徒が再び本市へ訪れたいとの希望があった。 ●飯野高校の入学者は、令和7年4月が6人と、高2留学1人の合計7人の留学生を確保することができた。 令和8年4月の全国卒の入学者が15人と全校生徒に占める留学生の割合も高くなった。 少子化により、飯野高校の生徒数の確保が課題となっているが、全国から生徒募集を行うことで生徒数の確保と地域活性化にも繋がっていると考ええる。 また、「飯野高等学校留学生受入推進協議会」主催による新たな留学生の歓迎交流会の実施や地域が開催するイベント等に生徒が参加することにより地域との交流を図ることができた。	●今後も引き続き、小規模市町村ネットワーク推進事業による飯野高校のPRを強化しながら全国または海外からの生徒募集を行い、生徒数の確保を図っていく。 また、令和4年度から女子寮として国際交流センターの2階部分、令和5年度からは京町の定住促進住宅の一部を男子寮として運営し、男女ともに寮の体制が整い安定している。 引き続き、寮を運営する団体に補助金を交付するとともに、同校や関係機関と連携し、安心・安全な寮生活を確保していく。	【評価】 現状のまま継続 【意見】 生徒寮の運営補助金については、近年の物価高騰により予算規模拡充も検討の余地があるが、今後も社会情勢をみながら対応していきたい。
		【寮を運営する団体への補助金】 令和7年度は、6人が新たな全国卒生徒として入学したのに加え、高校2年生の1年間だけ県外の高校から飯野高校へ留学して学ぶ、いわゆる「高2留学」の生徒が1人留学し、全国卒の生徒は令和7年度末で合計20人となった。 このように、全国卒の生徒が増加しているため、生徒寮の安定した運営と保護者の負担軽減を目的に、生徒寮を管理する団体に対し補助金を交付し、入寮している生徒が安全・安心に生活できるよう事業を実施した。 また、令和4年度から女子寮として国際交流センターの2階部分を活用し、令和5年度からは京町の定住促進住宅を男子寮として活用している。	【事業実績】 ●寮を運営する団体への補助金 生徒の安心・安全な寮生活を確保するため、寮を運営する団体「飯野高等学校留学生受入推進協議会」に補助金を交付した。 事業内容は、寮監や寮母の設置にかかる人件費や給食業務の人件費などを主に支援するもの。 令和7年度は、21人が入寮した。 [内訳] ・男子寮:10人(3年6人、2年3人、1年1人) ※うち、高2留学1人 ・女子寮:11人(3年1人、2年6人、1年4人) 【事業費】 ●総事業費:50,443,000円 (うち、2,275,000円は地方創生推進交付金を活用) [内訳] ①収入総額50,443,000円 ・生徒負担の食費:7,865,200円 ・居室料:6,294,800円 ・市補助金:36,283,000円 (収入・支出の差額3,454,455円は市に戻入) ②支出総額:46,988,545円 ・給食業務委託料:29,516,962円 ・寮監設置費:9,804,660円 ・寮母設置費:632,600円 ・居室料:5,396,400円 ・地域交流費:34,500円 ・光熱水費:756,441円 ・通信費:414,590円 ・消耗品費:71,743円 ・自治会協力費:25,220円 ・予備費:335,429円							